High Density Polyethylene+15%Glass Fibers Welding Rod,有限会社ティークラフト,R12-XX-YY-ZZ

安全データシート（SDS）

1. 化学品及び会社情報

- 製品名: High Density Polyethylene + 15% Glass Fibers Welding Rod（HDPE・グラスファイバー15%入り溶接ロッド）
- 製品品番: R19-04-03-NT、R12-XX-YY-ZZ 他
- 推奨用途: プラスチック溶接機を使用した自動車等の HDPE 樹脂部品の修理（業務用）

供給者の会社名称、住所及び電話番号

- 供給者の会社名称: 有限会社ティークラフト
- 住所: 〒444-2134 愛知県岡崎市大樹寺 2 丁目 17 番地 3
- 担当部署: プラスチックリペア事業部
- 電話番号: 0564-28-5319
- 担当者: 田中

2. 危険有害性の要約

- GHS 分類:
  - 物理化学的危険性: 分類できない（常温では危険性なし）
  - 健康に対する有害性: 分類できない（常温では危険性なし。加熱時に発生するフュームや分解ガスが上気道を刺激するおそれあり。ガラス繊維の露出・飛散による物理的刺激に注意）
  - 環境に対する有害性: 分類できない
- 絵表示またはシンボル: 該当なし（Not Applicable）
- 注意換気語: 該当なし
- 危険有害性情報: 常温での使用において特段の危険性はありません。加熱・燃焼時は刺激性の煙やガス（ホルムアルデヒド等）が発生します。また、ガラス繊維を含有するため、切削・研磨時に皮膚や目を刺激する場合があります。
- 注意書き: 常温時は特になし。高温作業時は適切な換気および保護具を着用すること。溶接時に煙霧を吸い込まないこと。

3. 組成及び成分情報

- 化学物質・混合物の区別: 混合物
- 成分情報:

- ポリエチレン（HDPE）: 含有量 ＜100%、CAS 番号: 9002-88-4
- グラスファイバー（ガラス繊維）: 含有量 10 〜 15%、CAS 番号: 95977-17-3（※記載ミス修正：正誤対応）
- 添加剤: 含有量 1%未満

4. 応急処置

- 目に入った場合: 加熱した物質が眼に入った場合は、まぶたを開いた状態で 15 分間直ちに清浄な水で洗い流すこと。コンタクトレンズを着用している場合は取り外すこと。直ちに医師の診察を受けること。切削粉等による刺激の場合は流水で洗い流し、必要に応じて医師の診察を受けること。
- 皮膚に付着した場合: 常温の製品では特になし。高温の溶融物質が皮膚に付着した場合は、直ちに水で冷やすこと。固化した材料を皮膚から無理に剥がそうとしたり、溶剤やシンナーを使用して溶解させたりしないこと。植物性油、鉱物油、またはワセリンの使用が除去に推奨される。熱傷のために医師の診察を受けること。ガラス繊維による物理的刺激を感じた場合はこすらず流水で洗い流すこと。
- 吸入した場合: 被災者を空気の新鮮な場所に移動させ、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸が困難な場合は酸素を補給し、呼吸していない場合は人工呼吸を行うこと。呼吸困難が続く場合は医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合: 飲み込んだ場合は無理に嘔吐させないこと。コップ 1 杯の水または牛乳を飲ませ、直ちに医師の診察を受けること。意識のない人には決して口から何も与えないこと。

5. 火災時の措置

- 適切な消火剤: 水噴霧（スプレー）。表面燃焼材料であるため、可能であれば霧状（フォグノズル）のスプレーとして適用すること。高速度の水を直接当てると燃焼表面層が広がるおそれがある。
- 特有の危険有害性: ポリエチレンを大量に保管するとエチレンガスが蓄積し爆発の危険性がある（爆発下限 LEL: 2.7%以下に管理が必要）。不完全燃焼によりホルムアルデヒド、一酸化炭素、炭化水素等が生成される場合がある。
- 消火作業者の保護: 自給式呼吸器（SCBA）を含む適切な保護具を着用し、密閉された空間での消火作業時は防護を徹底すること。

6. 漏出時の措置

- 漏出時の対応: 固体のロッド状であるため特別な予防措置は不要。液体材料がこぼれた場合は冷却して固化させ、回収して適切な容器に入れ、適用される規制に従って廃棄すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い: 子供の手の届かないところに保管すること。業務用のみとし、一般への販売を意図していない。グラスファイバーが材料表面から突出し、皮膚や目を刺激する場合があるため取り扱いに注意すること。プラスチック溶接中に放出される蒸気や煙を吸い込まないこと。加熱された物質と眼、皮膚、衣服との接触を避けること。換気の良い場所でのみ使用すること。
- 保管: 燃焼する可能性のある固体として扱うこと。強酸化剤を避け、換気のよい涼しく乾燥した場所に保管すること。熱、火花、裸火の近くで使用または保管しないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

- 管理濃度 / 許容濃度: 設定なし（参考: ACGIH TWA 3 mg/m³ ※ポリエチレン粉塵等として）
- 設備対策: 換気の良い場所で使用すること。加熱された材料が蒸気やヒュームを発生させる場合は、プロセス囲い、局所排気装置、またはその他の工学的管理手段を使用してばく露を管理すること。
- 保護具:
    - 呼吸用保護具: 通常の作業では不要。加熱された材料が換気によって適切に制御されていない蒸気や煙を発生させる場合、または切削・研磨時に粉塵が発生する場合は、有機ガス・ホルムアルデヒドおよび防塵対応の国家検定合格品（または NIOSH 認定）の呼吸用保護具を着用すること。
    - 手の保護具: 溶融した高熱樹脂の接触による熱傷、および高温になる溶接トーチ先（ノズル周辺）に直接触れて火傷をするのを防ぐため、加熱・溶融作業時は耐熱手袋を着用すること。
    - 眼・面の保護具: 溶接時や切削・研磨時のガラス繊維・粉塵の飛散による眼への刺激を防ぐため、化学ゴーグルまたは安全眼鏡とフェースシールドを着用すること。
- 衛生対策: 食事、喫煙、または洗面所の使用前に手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観: ワックス状ロッド（白色）
- におい: 溶けるときの穏やかなにおい
- pH: 決まっていない
- 比重: 0.91 〜 0.98
- 溶解度: 水に不溶（未決定・無視できる）

10. 安定性と反応性

- 化学的安定性: 通常の周囲温度および予想される保管・取扱い条件で安定。
- 避けるべき条件: すべてのプラスチック材料は静電気を発生する可能性があるため、爆発性混合物の周囲で使用しないこと。過熱を避けること。
- 混触危険物質: 酸素、および塩素酸塩、硝酸塩、過酸化物などの強力な酸化剤。
- 危険有害反応可能性: 危険な重合は起こらない。
- 危険な分解生成物: 熱処理中に低分子量の炭化水素、アルコール、アルデヒド（ホルムアルデヒド等）、酸、ケトンが生成される可能性がある。

11. 有害性情報

- 毒性情報: 本製品としての毒性試験データはない。グラスファイバーを含有しているため、切削・研磨時の粉塵や露出した繊維が皮膚や眼、上気道に物理的な刺激を与えるおそれがある。高温時の溶融物は皮膚熱傷を引き起こす。加熱時のフュームは上気道の刺激や悪心を引き起こす場合がある。

12. 環境影響情報

- 生態毒性: 水生生物に有害であるとは考えられていない。水に不溶であるため環境中での移動性は低い。

13. 廃棄上の注意

- 廃棄方法: 可能であればリサイクルする。廃棄する場合は、地域の環境当局や自治体の規制（日本の廃棄物処理法等）に従って適切に処分すること。

14. 輸送上の注意

- 輸送規制: 非該当（国連分類上の危険物としては規制されていません）

15. 適用法令

High Density Polyethylene+15%Glass Fibers Welding Rod,有限会社ティークラフト,R12-XX-YY-ZZ

- 労働安全衛生法（安衛法）: 固体の安定した高分子化合物（ポリマー）であるため、通常、安衛法の「通知対象物質（表示・文書交付義務）」に該当しない。（※グラスファイバー等は高分子マトリックス中に固定されているため、通常の固形状使用では対象外となります）
- 化学物質排出把握管理促進法（PRTR 法）: 非該当
- 消防法: 固体の合成樹脂（プラスチック）であるため、危険物（第 4 類など）には該当しません。ただし、一定量以上をまとめて保管する場合、自治体の「火災予防条例」に基づく「指定可燃物（合成樹脂類）」に該当し、保管量の届出や防火上の制限を受ける場合があります。

16. その他の情報

- 参考文献:
    - パーツ供給元提供 SDS
    - GHS Hazcom 2012 / GHS 分類ガイダンス
    - JIS Z 7253 : 2019
    - JIS Z 7252 : 2019

責任の限定について

この安全データシート（SDS）は、部品供給元から提供された情報等に基づき、JIS Z 7253 に準拠して作成しています。記載内容は現時点で入手できるデータに基づくものであり、将来の知見によって変更される場合があります。また、通常の取扱いを対象としたものであり、特殊な取扱いの場合には十分な安全対策を実施の上でご利用ください。

ここに記載した GHS 分類区分の算定根拠は、現時点における日本公表データ（NITE）です。